

両沼地方稲作情報 第7号

令和8年1月9日

【7年産米の振り返り】



J A会津よつば 各営農経済センター、(有)カネダイ、(有)猪俣徳一商店、(有)山一米穀店、
会津宮川土地改良区、阿賀川土地改良区、会津坂下町只見川土地改良区

発行：福島県会津農林事務所会津坂下農業普及所（電話0242-83-2113）
金山普及所（電話0241-54-2801）

↑ 会津坂下農業普及所のホームページで情報を発信しておりますのでご活用ください。

本年は、夏季（6～8月）に前年、前々年と同様に記録的な高温で経過し（図1）、また、登熟後半に降雨にみまわれ、前年同様にコシヒカリ等で倒伏が多くみられたなかで、水稻は平年並の作柄となりました。

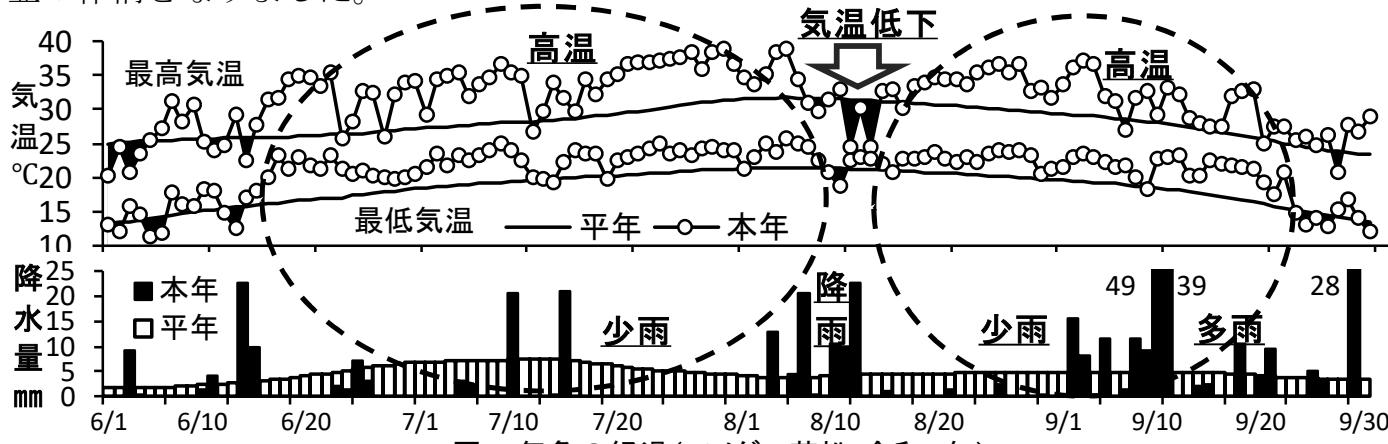


図1 気象の経過(アメダス若松、令和7年)

■ 気象及び生育・作業の経過

- 播種期～育苗期** 播種作業は概ね平年並で進捗しました。春先の寒暖差によるやけ苗や苗立枯病、低温による出芽の遅れや出芽不良が露地プール育苗や湛水直播栽培でみられました。
- 移植期～活着期** 融雪の遅れや降雨により耕うん作業は一時停滞しましたが、田植えは概ね平年並に進捗しました。活着も概ね良好でした。
- 分けつ期～幼穂形成期** 高温・少雨（干ばつ）で経過して、草丈、茎数は概ね平年並から平年を上回りました（幼穂形成始期頃の平坦部コシヒカリは、同じ高温年であった前年に続き草丈が長く、成熟期の稈長が100cmを上回り（表1、図2）、本年も倒伏拡大の一因になりました）。一部、表層剥離・藻類、土壤還元が影響し、分けつが抑制された圃場がみられました。特に低温で出芽が遅れた湛水直播栽培では生育抑制が強くみられました。
- 出穂期～成熟期** 出穂期、成熟期は湛水直播栽培を除き平年並から早まりました（表1）。出穂期～穂揃期の8月中旬に気温がやや低下して降雨があったことで高温登熟や渴水の影響が改善されました。8月下旬からの降雨（しばしば強雨）によりコシヒカリ等の長稈で倒伏が拡大しましたが、前年のような挫折型倒伏には至らず収穫作業は概ね平年並に進捗しました。

表1 作柄判定圃場の生育及び収量

区分 品種 (ほ場町村)	年 次	生育ステージ			成熟期における		
		移植期 (月/日)	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)
平坦部 コシヒカリ (会津坂下町)	本年 平年*1 差比	5/18 5/17 1	8/5 8/6 -1	9/16 9/20 -4	103.0 95.5 108%	19.4 20.1 97%	385 348 111%
平坦部 ひとめぼれ (湯川村)	本年 平年*2 差比	5/16 5/17 -1	7/29 8/1 -3	9/8 9/11 -3	84.4 90.6 93%	19.6 20.5 96%	430 443 97%
山間部 ひとめぼれ (昭和村)	本年 平年*3 差比	5/24 5/24 0	8/3 8/3 0	9/15 9/15 0	84.1 81.0 104%	19.6 19.5 101%	562 488 115%
湛水直播 コシヒカリ (会津美里町)	本年 平年*1 差比	4/29*4 4/29*4 0	8/13 8/12 1	9/24 9/19 5	93.2 95.6 97%	17.9 18.5 97%	334 335 100%

注: *1)前3ヵ年、*2)前4ヵ年、*3)前5ヵ年、*4)播種期

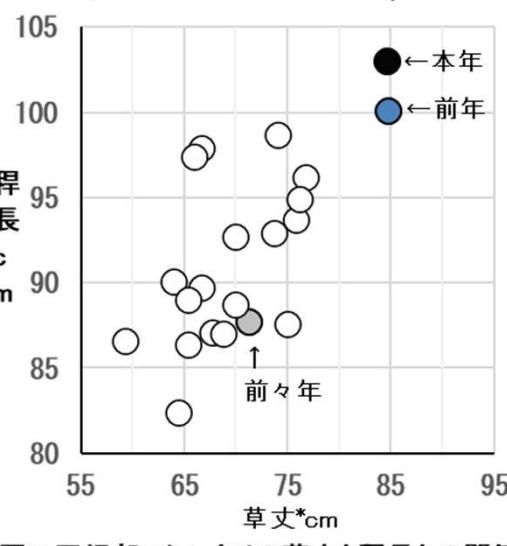


図2 平坦部コシヒカリの草丈と稈長との関係

注*7月15日調査、作柄判定圃場；平成17

年～会津坂下町、会津美里町

■ 主な病害虫・雑草

- いもち病** 高温年でしたが、会津地域の穂いもちの発生は平年より多く（図3）、一部、山間地の常発地帯では、「ずり込み」症状がみられました。
- 紋枯病** 夏季の高温に伴い近年発生が増加傾向にあり、会津地域でも平年より発生が多くみられました（図4）。
- 斑点米カメムシ類** 会津地域は畦畔でアカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、ホソハリカメムシが多くみられました。水田内での発生は平年より少なめでしたが（図5）、高温により発生が増加傾向にあります。

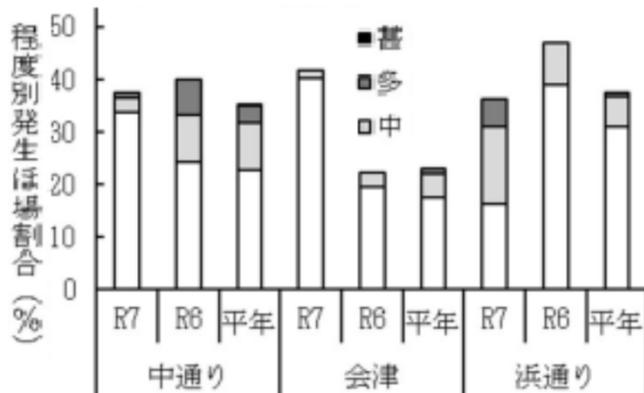


図4 紋枯病の発生状況 (9月上旬)
県病害虫防除所調べ

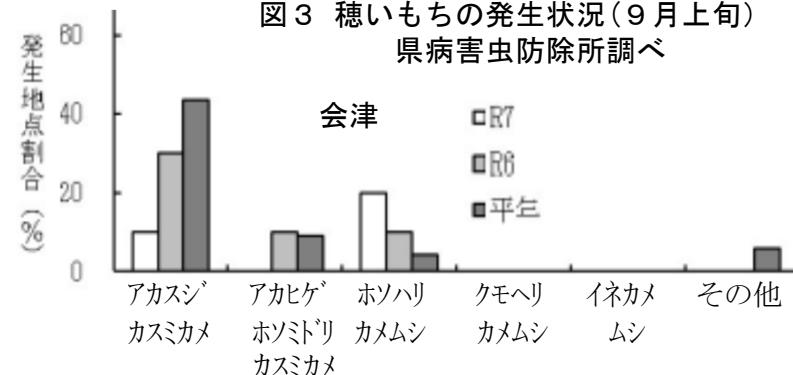


図3 穂いもちの発生状況 (9月上旬)
県病害虫防除所調べ

図5 斑点米カメムシ類の発生状況 (水田内、9月上旬)
県病害虫防除所調べ

- 雑草** 一発除草剤の取りこぼしがみられ中後期剤の問い合わせが多くありました。また、高温少雨に伴う田面露出の影響と考えられる後発雑草がみられ、収穫時期に残草が散見されました。

■ 収量品質

- 登熟状況** 平坦部コシヒカリは穂数増によりm²穂数が多く確保されましたが、篩下が多く収量は概ね平年並となりました（図6、表2（篩下144%））。なお、作柄判定圃場では倒伏が少なく用水も確保されたことで比較的良い登熟環境でしたが、現地では倒伏や少雨等の影響により登熟環境が厳しかった圃場で篩下やくず米の増加による減収がみられました。

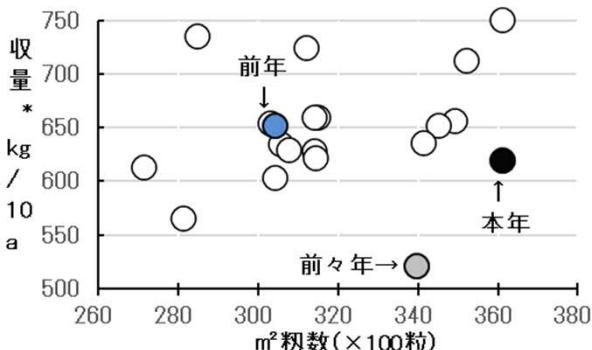


図6 平坦部コシヒカリのm²穂数と収量との関係
注 *篩目1.8mm以上、作柄判定圃場；平成17年～会津坂下町、会津美里町

表2 平坦部コシヒカリの収量及び収量構成要素

年次	収量(kg/10a)		穂数	1穂穂数	m ² 穂数	登熟歩合	千粒重
	1.8mm ^{*1}	1.9mm ^{*2}					
本年	617	561	56	385	93.7	361	85.4 20.0
前年	635	577	58	364	90.3	305	83.2 21.4
前々年	521	487	34	345	98.3	340	72.7 19.9
平年	603	564	39	348	94.6	316	81.5 20.9
平年比	102%	99%	144%	111%	99%	114%	105% 96%

注.*1)篩目1.8mm以上、*2)篩目1.9mm以上、*3)篩下(1.8mm以上～1.9mm以上)
作柄判定圃場(会津坂下町)

表3 令和7年産米の検査等級(%)

品種	1等	2等	3等
コシヒカリ	96.0	3.9	0.1
ひとめぼれ	95.4	4.6	0.0
天のつぶ	92.1	7.8	0.1
里山のつぶ	80.8	11.9	7.3
全体	94.0	5.8	0.2

注:JA会津よつばみどり地区(R7/12/15現在)

「令和7年度穀類モニタリング検査*」にご協力ありがとうございました。基準値超過はありませんでした。

結果は福島県水田畠作課のホームページで公表されています (*で、Web検索)